



海と共存するゴミたち。 海中で、海を守る アハ体験!

文・写真

東 真七水

text & photo by Manami Azuma

「スキューバダイビング×ゴミ拾い×水中ごみ拾い」を専門としたダイビングショップ「Dr・blue」でゴミ拾いダイビングのインストラクターをしている東真七水です。今回は水中ゴミ拾いの魅力の一つである「水中アハ体験」についてご紹介します。

**ゴロゴロと分かりやすく
転がっているばかりではない
海中ゴミ。**

それが水中ゴミ拾いの難しさであり、独自の面白さにもつながっている

一見美しい海であっても、ゴミは存在しているかもしれない。と、いうのも、海中のゴミは、砂を纏^{まと}ったり、岩の下敷きになっていたり、付着生物によって変色し、様変わりしていたり、海の一部となって潜んでいる場合がよくあるのです。例えば、下の写真を見てください。ペットボトルが隠れているのが分かりますか？右下部分に注目すると、白いキャップが少しだけ頭を出しています。海の景色に溶け込みながらも確実にゴミは存在していて、まるで自然界での間違い探しに挑戦



海の景色の中に潜んでいるペットボトル。

しているような、エンターテインメント要素が多いにあります。「こんなところにゴミがあったのか！」とうまく化けているゴミを発見できたときが、まさに海を守る「アハ体験」なのです。

**一方で、全く姿が見えない
ゴミも…**

台風後の海でのこと。いつものポイントに潜った際、普段はめったにお目にかかれないう30〜50年前のものと思われる空き缶が大量に転がっていました。台風には海をかき混ぜる効果がありますが、砂中に全身が埋まっていたり、岩の下敷きになったりして見えなくなっていたゴミがその影響で出てきたのではと推測。

そうすると、海の地中には数十年も前のゴミがたっぷりと眠っていて、私が普段の水中ゴミ拾いで発見しているゴミは氷山の一角とも考えられます。今年に入って回収するゴミの量がずいぶん減少し、これまでの活動成果を感じるものの、何かのきっかけでまだ見えていないゴミたちが姿を現すかもしれません。

今後そんな一筋縄ではないかな海のゴミと出会える喜びと、回収の楽しさを発信することでゴミ拾いの人口を増やし、「一人の百歩より百人の一步」で海を良くしていきたいです。

Profile

奈良県生まれ。大学を卒業後化粧品会社に就職。沖縄の綺麗な海を守りたいと2020年に沖縄に移住し、2022年、水中ごみ拾い専門店Dr.blueを立ち上げる。
【Dr.blue ウェブサイト】
www.dr-blue.okinawa

